

dictionary 112



on air
Podcast

Podcastでも視聴できるdictionary

on air
Podcast



NO NUKES, MORE TREES 対談

坂本龍一 × 大林ミカ × 田中 優

音楽家

環境エネルギー政策研究所副所長

環境活動家

僕はね、基本的にエゴイストなんですよ、
で、僕はみんなにもエゴイストになって欲しいんですよ。要するに
自分が美味しいものを食べて、美味しい空気吸って、美味しい水、安全な水を飲んでね、
自分の愛する家族にもそうあって欲しいんですよ。(坂本龍一)

進行：吉村栄一・桑原茂一 構成：神無月好子 写真：北井博也 (Image)



再処 題の基礎知識

そもそも、六ヶ所村の再処理工場(註1)って?

大林 「再処理」ということで原発の使用済み核燃料を化学処理してプルトニウムとウランを取り出す工場です。

田中 プルトニウムって全人類の致死量が小さじ一杯と言われるほどの猛毒物質で、しかも核兵器の他に使い道がないですからね。

大林 日本で備蓄しているのは国内外で43トン。プルトニウムは核兵器の材料になる物質で、六ヶ所の再処理工場で取り出されるのが年間8トン、長崎型の原爆(註2)であれば1年間に1000個分貯まる。今すぐエネルギーの燃料として使う計画はない状況なので、これからどんどん何トンも取り出してどうするのか。

坂本 そうね。プルサーマル(註3)っていうのは使

い道に困って無理矢理ひねり出した、理由にもならない理由。経済的にも上手くいくはずないわけだし、どうしてやってるんでしょうか。

大林 今、原発を日本は55基持ってて、でも再処理工場がないと原発の運転を止めなくては行けないというわけではない。実際、原発を100基以上運転している米国でもその使用済み燃料の再処理は行っていない。再処理工場というのは別に原発の運転と直接関係のある設備ではないので、原発の通常運転とはまったく違った次元で運転開始されるものです。

大きな3つの問題点

環境汚染の問題

田中 再処理工場の一番の問題は、過去に例を見ない程のとんでもない汚染が始まってしまったという点。食べ物がみんな汚染されてしまうので、日



stop-rokkasho

坂本龍一さんの目指す世界は「NO NUKES, MORE TREES」。現在、青森県六ヶ所村の核燃料再処理工場の危険性をインターネットと音楽やアートを通じて、世界に知ってもらうために、shing02等と始めた活動「stop-rokkasho」を中心に活動している。
<http://stop-rokkasho.org>



(註1) 青森県六ヶ所村核燃料再処理工場

原発から出た使用済み核燃料からプルトニウムとウランを取り出す施設。今年3月31日に試運転がスタート。再処理の際に出た放射性廃液を三陸の海に捨てるなど、様々な問題が起こっている。

stop-rokkasho.orgより

本の北側半分については、それこそ生協の基準(註4)で言うところを越えちゃう、食べることに適さない様なレベルになってしまう。

経済性の問題

田中 もうひとつはわざわざ高いプルトニウムとウランを作って出さなくちゃいけないという、経済性の問題。プルトニウムとウランをリサイクルするんだって言うんだけど、新しいウランを買ってくれば、再処理して取り出したプルトニウムとウランを使うより一桁安い。プルトニウムは無理に燃料に混ぜる必要はないし、再処理はエネルギーセキュリティにつながるものでもない。そもそもそれを動かしていくのに石油が必要なんだから。

坂本 六ヶ所村の再処理工場が進んでるわけですよ、本格稼働に向けて。やってる人もあんまりやりたくないと思うんだけど。結局これは公共工事と同じでお金だと思うんですよ。原発作ったりすると儲かるような構造があるんで、なかなかスイッチしない。石油もそうだと思いますけどね。自然エネルギー、風力とかいろんなことで儲かる仕組みを、なんかやりたがらない。

田中 公共事業費として出る税金からの額が、原子力については毎年5000億円程度使われるんですよ、一方自然エネルギーに対しては800億円にも届かない非常に少ない額。もし逆転すれば、雇用者数だってはるかに増える。

坂本 換えりゃいいじゃないかって思うんだけど、既得権益なんですよ。大きな産業だからスイッチするのがなかなか大変でマインドもついていかないってことなんですよ。ねえ。

ピークオイルの問題

田中 もうひとつすごく重要な問題でピークオイルっていうのがあるんですね。石油の問題は、あと30年で枯渇するから30年後に問題はやってくるって言われていた。ところが実際はもう新しい油田がみ

つからない、という状態の中で需要はどんどん伸びていってる。それに対して油田からの石油の供給は、お椀をひっくり返したような形を描いて途中から下がってしまう。このピークを越えて下がりはじめると、需要はいっぱいあるのに供給できないという時代に入る、おそらくは2010年前後にはピークが来てしまうと見られています。その時点で石油は足りなくなり、世界中が大パニックを起こすような状況になってしまいます。そんな時代に原子力で何ができるのか、今後の世界を考えると自然エネルギーなりにシフトしなければいけないのに。全然役に立たないプランになってる。

世界から懸念される核拡散

大林 私は国際的に与える影響って非常に大きいと思っていて。核拡散の問題。世界で初めて核兵器を保有してない国でこれだけ大きな商業用の再処理工場を運転する国になる。日本は広島と長崎を経験してますから、リーダーシップをある意味とって、国際社会の中で核兵器の廃絶というのを訴えかけてきた、それが国内にプルトニウムを備蓄してしまう。北朝鮮もイランも、日本がやってるのにどうして私達はダメなんだってはっきり交渉の中で言ってるんですね。日本が核武装するんじゃないかと疑っても仕方ない。

坂本 テロリズムというか、セキュリティですね。プルトニウムが盗まれたりとか、或はそこにミサイルが飛んで来たりとか、いろんな危険性が非常に大きくなるという。日本にこれだけたくさんプルトニウムがあるというのは、で、これからも作っていいけるというのは、もちろん安直にプルトニウムが世界に散らばっちゃったら困るわけですけども、原発と再処理工場と核武装っていうのはやっぱりどうしても切り離せない3点セットみたいな風に思えるんですけどね。

(註2)長崎型原爆
8キロのプルトニウムが使われたと言われている。広島型はウランだった。

(註3)プルサーマル計画
再処理工場に取り出したプルトニウムにウランを混ぜたMOX燃料を通常の原子力発電所で使用する計画。国は、核燃料の「リサイクル」として推進している。

(註4)生協の基準
今、日本の食物の汚染は、γ線ではほぼゼロ。政府の食品の暫定輸入基準は、γ線を出すセシウムで370ベクレル以下だが、生活クラブ生協の自主基準は37ベクレル以下となっている。青森県が公表しているデータ値では、より検出しにくいβ

線で米が放射性炭素で90ベクレル、三陸沖の魚はトリチウムで300ベクレル汚染すると公表されている。食べてしまった場合の人体への影響ではより深刻になるので、生協では扱わなくなる可能性がある。

——北朝鮮やイランが、日本は再処理しているのになぜうちはダメなんだって言うことがあんまり日本では報道されてないと思うんですけど。

大林 アメリカのメディアの中では、日本に再処理を許すことによって国際的な安全保障が揺るがされるってことは繰り返し報道されてます。実際にアメリカの民主党政議員が有志で日本の大使館に書簡を送っています。プルトニウムの再処理を止めるべき、という。それに関していうと、日本ではあまり取り上げられなかった。

坂本 日本にね、核兵器を持たせて軍備を増強させるとかね、アメリカの中にもいろんな意見があると思うんです。ただ、そっちの方向には向かってますよね、どんどん軍備増強してるし。お金もかかるんでアメリカは直接手を下さないで、東アジアのことは日本にやらせようと、論議はされてると思いますけどね。もちろん予測ですけど。日本っていう存在が、アメリカにとっては前線基地みたいな、とてもいい地形でね、中国に対して砦（註5）みたいなもんですから。

CMの刷り込み

地球温暖化キャンペーン

大林 刷り込まれてるっていうののひとつ、地球温暖化のこと、どう思われるのかお聞きしたかったんですけど。ものすごいキャンペーンやってるじゃないですか、原発はクリーンなエネルギーだって、それこそもうラジオでテレビで新聞でものすごく。

坂本 あれも随分染み込んでいきますねえ。こないだ実は東電の幹部と話したんだけど、「いやあほんとに温暖化でね、追い風になってくれてね〜」って言うんですよ。原発はコスト的にも大変だし、もちろん放射能被害の可能性もあるし、やってる側もいろいろ難しいわけですよ。でもここで地球温暖化

って騒いでくれたんですごい追い風になってって言うてる。それはもちろんCO2の表面だけ見てるけれども、じゃあ放射能の被害はどうなんのよって。

田中 二酸化炭素っていくら吸っても死にやしないけど、ねえ、プルトニウムとかもうほとんどサリンみたいな世界なのに。そっちを放置してCO2を悪者にするのは話が違わらうって。

坂本 サリンより猛毒でしょう。

電力の3分の1は原発！?

坂本 日本の全エネルギーの3分の1は原発で作られてますって毎日夕方やってますよね。あれ結構みんなそう思ってるのね。自然エネルギーにシンパシー持ってるような僕の友達ミュージシャンなんか、「そうは言っても自分たちもミュージシャンだから電気を使わざるを得ない。生活する時も電気は要る。その3分の1は原発だ。だから恩恵を受けているんだから文句言えない」みたいなね。それはナイーブで素晴らしい考え方だと思うけれども（笑）、あれっていわゆる年間の最高に使われるピーク時の電気量に対してっていうトリックがあるでしょ？

田中 原子力発電というのは100%無理矢理フル稼働で動かすんですね、1年間。その結果として30%を超えてしまうっていうふうなレベルになるんですけれども。

大林 その30%のことですけど、結局は原子力って一定していて、調整できないですよ、ところが需要というのは1秒1秒こういうふうな（上下に）なってますよね。何で調節してるかっていうと化石燃料なんですよ、ガスや石油であり、或は水力発電であり。自然エネルギーも確かに、太陽光発電とか風力発電は一瞬一瞬では調整ができないから、ある意味原子力と同じ調整できない電気。でもバイオマスとか地熱とか水力発電とか調整できる電気もあります。逆に言うと調整ができないから、100%原子力で賄うってことは絶対にできないんです、なの

（註5）日本と中国の地理関係



自然エネルギーへのシフト

にあたかも原発ないからダメなんだと。100歩譲って30%随つてるとしても、それにこれだけのお金を、全身全霊をつぎ込んで支えているっていうことを考えると全くのナンセンス。

坂本 単純に3割3割と言ってね、だから必要なんだって言ってプロパガンダやってますけど、そのくらいは今我々が持つてるテクノロジーで、自然エネルギーで置き換えることは可能なんでしょ?やる気になれば。

大林 全然可能だと思います。まずは省エネルギーで可能で、**実際この世界中の国の中で原子力を持ってない国の方が多いわけですよ、数でいうと。だからそれはもうまったく不可能ではない。**

田中 分析してみたらね、東京電力っていうのは日本全体の3分の1の電気を供給してる巨大会社なんだけれども、電力のピーク、すごく消費がピークと伸びちゃう時に電気が足りなくなるからもっと発電所を作らなくちゃいけないって話になるんだけど、「夏場、平日、日中、午後2時から3時にかけて、気温が31度を超えたとき、この時しかピークは出てないんですよ。だから逆に言うと解決策は簡単で、夏場平日日中午後2時から3時にかけて31度を超える日は、産業の電気料金を高くすれば、それだけで電気足りちゃう、ピークをぐっと下げることができる。

大林 省エネルギーをやることで解消できる数字だと思いますね。

田中 一番き面なのは料金でしょうね。家庭の電気料金は使っていくと途中で値段が高くなる、だから節約しないと生活が大変になっちゃうんですけど、企業の料金っていうのは最初の基本料金が高いんですけど、使えば使う程安くなっちゃうんです。

坂本 えっ!平等じゃないんだ、料金徴収システムが。ズルいね。でも売り手市場だからしょうがないか。

自然エネルギーは安い

大林 自然エネルギー(註6)の場合は全然環境被害をもたらさないにも関わらず、それを逆にプラスに評価するシステムって全くないですよ。市場の中で評価されないことが普及しない理由のひとつなんでしょうね。

田中 本来の形でいうと自然エネルギーのほうがすでに安くなっているのにそれが見えない構造にさせられて、我々は騙されてるっていうかなあ。なんかあたかも石油の方が安いかのように思わされちゃってますよね。

坂本 自然エネルギーがね、高い高いっていうのが結構組み込んでますからね、ほんとに安いはずなんだけど。

田中 原子力を全部捨てても自然エネルギーから買った方が安いじゃない。今だってグリーンな価値部分(註7)を除くと、電力会社は自然エネルギーからの電気を実際には2円~4円で買ってるんだから。政府は原子力が一番安くて5.9円って言うてる。

大林 問題は原発を持つてるのが電力会社ってことですよ。自分のところで調達してるから買う必要がない。コストが隠されてる。

坂本 そういう構造をみんな知らないで電気代を払ってるわけですよ。全部乗っかってるわけですよ、やっつ方は儲かる様になってるんだからさ、馬鹿げてるよ。自分家で作ればいいんですよ、或は町内とかさ。

田中 でも政策の取り方によって、ドイツでは自然エネルギーに15万人の人が雇用されてるわけですよ。日本サイズで言ったらトヨタ並の大きさになる。そう考えてみると、そういう産業を生み出すことができる国が一方である。

(註6)自然エネルギー

風力、太陽光、バイオマス、マイクロ水力、地熱などで発電された電気。二酸化炭素やその他の有害物質や廃棄物などを排出せず、環境負荷が小さい。

(註7)グリーンな価値

新エネ等電気利用法により、電力会社などは、自然エネルギーからの電気を一定量以上利用することを義務づけられた。そのため通常の電気価格とは別に、自然エネルギーから得られた電気という価格が生じた。「グリーンな価値」とはこの部分を指している。

止められない構造

大林 イギリスは国有化した原発の産業をどんどん売ってますよね、東芝が高〜い値段で買ったりしてますけど。それをみると、市場がそんなに動いてないのに、政治レベルでものすごくやらせてがってるイメージですよ。

坂本 その理由はいまいち不明なんですよ。経済的にはあんまり見合わないわけだから。だけどダムとかと同じでね、地元にはかなりのお金が落ちるわけで、一生懸命誘致しようとしてる自治体はたくさんあるわけですよ。建設会社はもちろん儲かりますよね、そこから落ちてくるお金も。かなりいい公共事業なんですよこれは、建設会社も地元も潤うわけですから。

大林 ずっと六ヶ所再処理のいろいろな働きかけをやってきて思うのは、政府も実は止めたがってた時期があって、電力会社もそうだったし、地元も再処理工場が動き出して、目先の金以外はいいことはないわけですよ。放射能で汚れていきますから。三者ともやりたくないものがどうして進んで行くのかっていうふうに思うと、日本はそれをきちんと止める為のコアの政策がないですよ。

坂本 そうですね。進めてる、関わってる人達は止められないですよ。

大林 国は自分たちが始めたことだから止められない。止めてしまうと役所が電力会社から訴訟をうけるかもしれない、国策としてやらせてるから。電力会社は電気料金で積み立てた金をすでに注ぎ込んでますから、それを回収できないし。あとは地元に対して約束してる、お金を落とすしちゃんと建設するから、原発からゴミ(使用済み核燃料)をちゃんと運び出して六ヶ所に持って行くからって。それをやめてしまうことになるから自分たちからはノーとは言えないと。

田中 原発は建てるのに25〜30年かかってそっ

から50年間動かす。今から建てようとしても2085年まで使わなければならないんです。その頃には人口半減しちゃってニーズなんか無いのに。まともな経営者であればやれないって判断をすべきところです。電力会社の側にも誰も責任を取れない構図がありますよね。

大林 一度経済産業省の役人に聞いたんですけど、電力会社に対してどういう条件なら再処理工場を止められるかっていうことを電力会社に聞いたことがあるらしい。そうしたら、「まずは国策の変更があったって国から頭を下げてくれないと、わたしたちから撤退はできない」ということ、あとはお金の保証(註8)について条件をだしたらしい。国はその時「とんでもない」と言ったらしい経緯を聞きました。でも、今から考えると、電力会社の言ったことはもつと条件でしょうね。

これでわかるのは、国も電力も、誰も責任を取る人がいないんですよ、だれかが深遠な思慮のもとに決めているのではなくて、実は、政策が空洞なんです。

動かすのは世論の高まり!

坂本 止めさせるのはさ、第三者ですよ、例えば強権的な首相とか、大統領とか。世間が変わるとかですよ。

大林 急に政治が変わるとかね。坂本さんが知事選に出るっていうのもあるかなあって思ったんですけど(笑)絶対嫌でしょうけどね。全力を挙げて応援しますよ(笑)

坂本 青森県知事ですか?それはちょっと、向いてないと思いますよ(笑)

大林 政治家ってもう憧れる職業ではまったくないですよ、むしろ嫌な職業じゃないですか、子ども達にとって。アメリカ、ヨーロッパとかだと政治家を尊敬する人として挙げる子どもとかまだたくさんいるんですよ?

(註8) お金の保証建設
六ヶ所村再処理工場の
費用は2兆1900億円。

坂本 いやあ、そんな変わらないですよ。もう政治家は馬鹿って決まってますよ、世界中で(笑)

大林 でもやっぱり私は坂本さんがおっしゃるように政治の問題だと思えます。

坂本 日本って小泉どころじゃなくてもっと強権的なファシストの首相になってもらって変えないと変わらないんじゃないの?今のシステムで進めてる人達はどうやっても止めることはできないんだ、だとすれば他の力で変えるか、あとはね、民の力ね。**動かすのは世論だと思っんですよ。**3月にPSE法という中古電気云々かんぬんのことがある。最初は誰も知らなかったの、それで実は(田中)優さんの一通のメールでみんなが知るようになった。

田中 あのメールが発端だったんですか?

坂本 じゃあ署名でもやろうかって、そしたら2週間で7万5千の署名が集まった。そのことに役所もメディアもびっくりして、目を追う毎にデカくなって、ああいうことになったと。あれで僕がわかったのは、メディアも役所も政治家も、視聴率に弱い、視聴率で動いてんのよ。だから民がなんか言ったらそりゃもうみんな戦々恐々としちゃうわけ。だから一人の強権的なファシストが止めさせられるかですね、変な言い方ですけどね、それと同じような力ってのはやっぱり民の力なんですよ。エネルギーに関しても民がね、こっちのエネルギーがいいってパーって言い出せばね、役所は動きますよ、だってへなへななんだもん、腰砕けですから。

偉大な太陽のエネルギー

坂本 地球、僕たちの住まいがあってね、地球自体っていうのは閉じられたシステムなんであまり宇宙との出入りがないんですよ。温度が逃げたりもしますけども。唯一そこに無制限に無尽蔵にくるのは太陽からのエネルギーですよ、だからそれを使わないっていうのはおかしいんですよ。どう

考えても、論理的に考えてもこれを使えばいいですよ。太陽から出てるほんのちよつとのエネルギーしか地球にはこないんだけど、それでも莫大なエネルギーで、少なくとも50億年ぐらいは続くって言われてるわけですから、これしか使うものはないはずなんですよ。ヘルマン・シェア…。

大林 ヘルマン・シェア(註9)、お好きなんですか?私むちゃ仰いいですよ(笑)

坂本 読んじゃえば当たり前のことなんだけど、結局戦争が起こる原因、いろいろあるでしょうけど大体資源をめぐって起こることが多いんで、石油に依存しない、自然エネルギー、地産地消型のエネルギーの使い分け、生産の仕方の社会になれば戦争の原因の大きな部分がガンッと減る。太陽のエネルギーって地球全体に降り注いでるんで、取ろうたって自分とこにもあなたのとこにも同じように来てるんだから、独占しようがない、取る必要、侵略する必要がないと。石油は地球上に点在してるんで、それが欲しいから戦争仕掛けるなんて人も出てくるわけですけど、**太陽光のエネルギーに依存した社会になれば戦争する意味がない。**

大林 あとヘルマンが言ってることは、石油とか原子力エネルギーを選択している国はやっぱりそういう社会になってると。

坂本 昔はタダだったわけだよ、黙ってたって雨は降るし、もともと人間がつくったわけじゃないじゃない、自然の恵みから頂くものなんで、空気でも水でも、太陽の光が今でも降り注いでるし。ほんとはお返ししたいくらいなんだけれど、人間ってのは微力なんでお返しはできないんだけども、とにかく利用させて頂くっていうのは論理的なんですよ。

消費は投票行動

坂本 消費行動っていうのは投票だってよく言う

(註9)ヘルマン・シェア博士
1944年生まれ。カールスルーエ原子力センター研究員などを経て、ベルリン大学で経済学と社会学の博士号を取得。ドイツ連邦議会委員。1988年にヨーロッパ太陽エネルギー協会を設立。ドイツを自然エネルギーのリーダー国にした「自然

エネルギー」の生みの親でもあり、経済・政治の立場から太陽エネルギー利用を訴えている。1999年もうひとつのノーベル賞と言われるライト・ライブラット賞を受賞。
www.hermann-scheer.de

じゃないですか。例えば水でもいいですよ、いろいろな水が売られていて、どれかを選んでお金を払うわけですよ、何らかの理由でひとつのものを選んで、これはその商品に対する投票でもあるし企業に対する投票でもある。それが直接ではないですけど株価に反映したり、商品に変化を起こさせたり。で、エネルギーにも当然そういうことはあっていいはずなのに、実際はほとんど選択肢が無い状態に近いというのはおかしくないですか？

田中 日本の中で起こった面白いこと態を紹介したいんだけど、電力消費の一番大きかった、最大のピークが出たのが2001年だったんですよ。それ以後には2004年に来て、39.5度、東京で最高の記録になった。だから普通だと温度が上がって来たらピークが出るんですけど、みんなエアコン使うから。ところが何故かピークが出なかった。なんとみんな省エネタイプに買い替えてた。エアコンの省エネタイプっていうのは10年前と比べると半分ぐらいまで消費電力減っちゃってるんですよ。その時の投票構造はいい物を選ぼうっていうよりお金をやすくしようってところにあったんだけど、結果として日本全体の電力消費が伸びなくなったっていう事態を起こしてるんですね。

坂本 おもしろいですね、ほくもそれは一番大きくて効果的だと思ってるんです。でもこれはね、本当に日々勉強されてるって偉いと思うんですけど、大林さんや優さんみたいなプロが言ってるだけじゃダメなんですよ、民の声なんですよ。お金払って犠牲受けるのも負担してるのも民だし。自分のお金で自分の命なんだからどう何を選ぶかっていうのは考えるべき、知るべきなの。

被曝労働の問題

坂本 鎌仲ひとみ監督の映画「六ヶ所村ラブソデ

イー」(註10)を観て、あれなかなか面白いドキュメンタリーで、ちょっと続けて観れないくらい、僕何度も止めちゃったんですよ。悲しいっていうかさ、切ねえ。まあそれだけ強いんですけど、特に面白かったのはあのクリーニング屋さんね。汚染するから外には持ち出せないものを中に入れてクリーニングしようって言うてるんだから被曝してるわけですよ。その彼は20代だったかな、おいしい仕事か、事業としてはデカイからものすごい利益になるわけで、「入りますか」って言われたら「僕入ります」って言うてるんだよね、悲しくなっちゃってさ。

田中 あの映画は賛成とか反対とかではなく、そこに生きてる人はどういうふうにしてどう生活してるのかっていう所を描いてますよね、そこがすごく悲しい。

坂本 自分が生きていくための、その畑とか漁港を取り上げられちゃったから、お国に。もう働く術がないわけですよ。

田中 原発の中の労働者っていうのは、被曝労働はもうほとんど全てが下請け労働者。汚染が激しいんで1分とか何秒とかしか入れなかつたりするんです。たかだかネジ締めるのに、パーっと走ってキュッと締めて終わり。次の人が駆け込んで行って締めてまた終わり。たかがひとつのナットを奥まで入れるために何十人という人がね。しかもそれで1年分の被曝をしてしまったら、その人は使えないって構図になっちゃう。

大林 原発の中で働いていらっしゃる方が2種類いらして、1種類は原発会社の社員であったりとか、大企業の、被曝をあんまりすることがない人たち。

坂本 コントロールセンターみたいな所にいる人たちね。

大林 もう一方、大多数の方たちは、日雇いとかが労働者で連れてこられてきて働かされる。被ばくを考

(註10) 六ヶ所村ラブソデー
10月7日よりボレボレ東中野で
上映中。

www.rokkasho-rhapsody.com/

えたら、放射性物質を消し去る技術っていうのはないから、漏れてきた時っていうのは、まず最初は雑巾で拭く。それで取れなかったらビニールシートを被せる、それで取れなかったらコンクリートで埋める。

坂本 誰かが行ってやんなきゃいけないんだもんね、漏れてるところにね。

田中 一番肝心なところは全部人間がやらなくちゃいけない。

大林 誰がやるんだって言ったらやっぱり人間しかない。そう考えると全然最先端の技術じゃない、なんか野蛮な技術ですよ。

坂本 六ヶ所でもそうですけど、とにかく生活手段を奪っちゃって、ここで働きなさいっていう、一種の奴隷制っていうのかな。これが今アメリカにずっと起こっていて、小さな町なんていうのはすごい失業率で、ほんとに働き口がないですよ。大学に行きたくても行けなし、唯一の手段は軍隊に入ることですよ。僕はこれ新奴隷制度だと言ってらんですけど、明らかに計画的にそういうふうに追い込んで。つまり、植民地が先住民に対してやったことと同じように、生活手段を奪って、例えば森を焼き払ったりしてプランテーションを作る。そうするとそこでしか働けない。で、お金を使わないと生活できないシステム持ち込んで、ここで働きなさいということですよ。同じようなことやってらんですよ、六ヶ所村も、僕にはそういうふうに見えますけども。

大林 六ヶ所村は原発と違ってたくさんの施設があるから雇用はあるでしょうけど。

坂本 そこしか働き口がないんだから。犠牲者ですよ、それは。

田中 ほんとに、背に腹は変えられないとかね、その人たちのせいじゃないから、その人たちは責めたくないよね。

未来が見える伝え方

大林 原発ができた所というのは、社会的に言われているのは非常に過疎の村であったり産業がなかったり辺鄙な所であったり。一方の言い方では、非常に美しく神が降りるような場所とも言いますよね。

坂本 だって聖地だもんね。核っていうのは現代においては一種聖なるものってとらえてる人たちがいるわけじゃないですか、そういう所が本能的にその土地を選択してんのかもしれないんだけど。日本には原発が55基あって、原発が在る所は大体縄文遺跡あるんですよ。六ヶ所にも10箇所くらい縄文遺跡があるんだからね、敷地内にもありますけど。言ってみれば日本の先住民の住んでた所と原発はね、地図的になんか重なるの。何故そうなるのか、今それを見つかる旅をしてるんだけどね。

縄文との不思議な一致

田中 僕は未来が見えるっていうのが重要なあって思うんですよ。そういう意味でいうと、自然エネルギーは未来に対してそれ以外の選択肢がない程の確実性を持つてる。現実にもう安く、使えるものになってきてる。だからそっち側に未来があるんだってことを、いかに伝えるかだと思う。逆に言うと、権力者が一番怖がっているのは自然エネルギーの可能性が知られることなんじゃないですか？

大林 未来を見せるっていう、それから坂本さんがおっしゃってた、太陽を使う。さっきから話に出てた30%は原発ですとか、原発は二酸化炭素を出しませんとか、すごい毎日刷り込みがあるんですけど、それは日本の特殊な事情だっていうことを若い人にはわかっていたいただきたい。

坂本 じゃあ僕たちが毎日刷り込みますよ、太陽を崇めましょうみんな。太陽さまって言って(笑)。

若い人々へのメッセージ

——最後にこれを見ている若い人々に一言ずつメッセージをいただけたら。

大林 原子力の問題と絡め、今再処理工場を止めたから原発がなくなってしまうのではない、再処理工場だけを止めることは今すぐにも可能ということをまずひとつわかっていただきたい。

田中 オール電化の方が環境にいいっていうふうなことが言われてるけれど、きちんとデータを調べるって二酸化炭素の量が増えます。だからそういうデマみたいなのに騙されないようにして欲しい。で、もうひとつは可能性を感じて欲しいということ。可能性を感じ始めたら、そこにどう走っていかばいいかっていうのは自分の意思でできる。そのために何を選択するか、自分が何をやるか、そういうふうを考えて欲しい。これからもぜひ一緒にやっていきましょう。

坂本 僕はね、基本的にエゴイストなんですよ、僕はみんなにもエゴイストになって欲しいんですよ。ていうのはね、環境のこととか言ってますけど、要するに自分が美味しいものを食べて、美味しい空気吸って、美味しい水、安全な水を飲んでね、自分の愛する家族にもそうあって欲しいんですよ。自分の命が危険に晒されたり、自分の体が汚染されたり、自分の愛する家族が危険なものを食べなきゃいけないっていうような環境っていうのはやっぱり嫌だよ。嫌だったら嫌っていう意思をどんどん表明してほしいんですよ、それもまあ投票行為でもあり、水ひとつ買うときでもね、良く考えて。やる気になれば情報はインターネットなんかにもたくさんあるんですね、ちょっと時間を使えばいろんなことがわかりますから。それは全部自分のためなんです。自分と愛する家族のためなんです。ひいては地球全体のためなんです。そういうふうに行動してほしいですね。



坂本龍一

1952年東京生まれ。東京芸術大学大学院卒。スタジオミュージシャンとしての数々の活動を経て、78年アルバム「千のナイフ」でデビュー、同時に「イエロー・マジック・オーケストラ(YMO)」に参加、世界的な成功をおさめる。映画「戦場のメリークリスマス」「ラスト・エンペラー」で音楽賞を多数受賞。音楽活動の他、CODE.ap bankなど様々なプロジェクトに参加し、常に世の中に警笛を鳴らしている。



大林ミカ

1964年中津市生まれ。特定非営利活動法人環境エネルギー政策研究所副所長。「自然エネルギー促進法」推進ネットワーク副代表も務める。英語塾講師などを経た後、92年から99年まで原子力資料情報室スタッフ。エネルギー・アジアの原子力問題を担当する。「自然エネルギー促進法」推進ネットワークの設立に98年から関わる。2000年8月に環境エネルギー政策研究所を仲間と設立、2000年9月から現職。共著に「自然エネルギー市場」(築地書館)など。



田中 優

1957年東京生まれ。子育て中のチェルノブイリ事故をきっかけに、脱原発の運動に参加。坂本龍一氏とともに「非戦」(幻冬舎)を出版したことをきっかけに、軍事と戦争問題にかかわるようになる。現在、地域のNPO「足温ネット」理事、「未来バンク事業組合」理事長、「ap bank」監事、「日本国際ボランティアセンター(JVC)」理事などを務める。最新刊は「戦争って、環境問題と関係ないと思った」(岩波ブックレット)。



この公開対談の音声・映像をPodcast「media CLUB KING」で公開中です。

最後までお読み頂きありがとうございます。

お読み頂いたstop-rokkashoについての対談は2006. 10. 10発行のフリーペーパー『dictionary』最新号NO. 112に掲載されています。

この号に関するお問い合わせは下記のアドレスまでお送りください。

■お問い合わせ — dic@clubking.com

※最後のページのアンケートへのご協力をお願いします



stop-rokkasho T INFORMATION



「stop-rokkasho T」とは青森県六ヶ所村核燃料再処理工場の危険性を世界に知らせる運動「stop-rokkasho」に賛同した、アーティストによって無償でデザインされたTシャツです。販売価格の30%が、この運動へ寄付されます。

Recommend T-SHIRTS

design by 中島英樹



PROFILE

1997年、中島デザイン設立。雑誌「Cut」等のエディトリアル、音楽、書籍、ファッション等の分野で活動。

■stop-rokkasho T 賛同アーティスト

yvan (イヴァン)、稲葉英樹、エドツワキ、小田島等、河原光、菊地敦己(Bluemark)、草野剛、桑原茂一、斎藤寿大(Bluemark)、サダヒロカズノリ、佐藤直樹(ASYL DESIGN)、Jonathan Barnbrook (ジョナサン・バンブルック)、菅谷晋一 (epok)、滝沢圭介、瀧本幹也、大日本タイポ組合、豊田弘治、中島英樹、東泉一郎、平間至、ヒロ杉山(ENLIGHTENMENT)、牧修三、松浦亮 (regina)、山本哲郎、Lallasoo Poopo Lab. (50音順)



TASM
ORGANIC
COTTON

ORGANIC TASM

このTシャツは、T-SHIRTS AS MEDIAとオーガニックメーカー・greenteeが共同で開発した、肌にもそして環境にも良い、インド製のオーガニックコットン100%ボディを使用し製作します。

T-SHIRTS AS MEDIAのサイトよりご購入頂けます。

<http://www.tshirtsasmedia.com/>

※「stop-rokkasho T」は、受注生産の形をとっております。1デザインの予約が30枚に達した時点で生産スタートとなります。その為、予約からデリバリーまでお時間を頂く場合がございます。また、予約注文のため、当面のお支払い方法が「代引きのみ」となります。ご理解の程お願い申し上げます。

